

(参考)

アジア・ゲートウェイ構想の基本的考え方

今、日本に何が求められているか

- ・ 日本は、企業の自由な経済活動を原動力として、アジアの経済発展を牽引。結果として、アジアにおいて実体的な経済的なまとまり、地域秩序を形成。「アジアと日本」の関係から、日本がアジアの中に埋め込まれていく「アジアの中の日本」の関係へと変化。
- ・ 「世界の成長センター」となったアジアが、閉鎖的になることなく、今後とも世界に開かれた地域（「開かれたアジア」）として発展していくことが、日本にとっても、世界にとっても重要。
- ・ 人口減少の局面を迎えた日本にとって、日本を更に「オープン」にし、アジアや世界の成長や活力を取り込まなければ、安定した経済成長の実現は困難。オープンは、イノベーションの創造にも繋がる成長のカギ。
- ・ しかしながら、世界的には、日本は未だに「閉鎖的」というイメージが強い。こうしたイメージを刷新せずに、アジアや世界の活力を取り込むことは困難。そのため、改革を進め真にオープンな経済社会を構築する一方で、情報発信力を高め、日本の魅力をアピールすることが必要。
- ・ アジアには、日本のカルチャーを受容し、日本を訪れ、日本に魅力を感じる人々が増えている。このような流れをとらえ、アジアの人たちとの相互理解・相互信頼の関係を構築し、われわれの友人としていくことが、日本を含めたアジアの安定と繁栄にとって大きな意義を持つ。
- ・ こうした中、今、日本には、アジアや世界の中で、どのような国を目指し、どのような役割を果たしていくのか、国内外にビジョンを明確に打ち出していくとともに、具体的な戦略を取りまとめ、それを実行していくことが求められている。

アジア・ゲートウェイ構想の目的

1. アジアの成長と活力を日本に取り込み、新たな「創造と成長」を実現する

- ・ 21世紀においても「美しい国」として繁栄するためには、安定した経済成長が持続することが不可欠。
- ・ 日本経済は長い停滞のトンネルをようやく抜け出したが、人口減少という大きな成長制約が現実のものに。経済成長を実現するためには、日本を更にオープンにし、アジアの成長と活力を取り込むことが必要。大きい国内市場が存在したために、国際競争の実感が乏しい産業分野も含め、厳しい国際競争を踏まえた成長力・競争力の強化を図り、グローバル化の中でアジアや世界とともに成長するメカニズムを構築する。

2. アジアの発展と地域秩序に責任ある役割を果たす

- ・ アジアがオープンで活力あるイノベーションに富んだ「世界の成長センター」として、引き続き発展するためには、環境・エネルギー制約の克服や、投資・ビジネス環境の改善など、取り組むべき課題は多い。
- ・ 日本は、アジアにおいてこうした課題の解決に貢献する能力を最も有する国。日本として、アジアの共通発展基盤づくり等にリーダーシップを発揮し、自由で開放的なアジアの地域秩序の維持・深化に責任ある役割を果たすことを目指す。

3. 魅力があり、信頼され、尊敬される「美しい国」を創る

- ・ 日本は、世界に誇りうる美しい自然に恵まれた長い歴史、文化、伝統を持つ国。「日本らしさ」に裏打ちされた文化や産業が、より一層アジアや世界の多くの人々を魅了できるように、これらの国際競争力・情報発信力を強化。
- ・ 各地域においても、自然、歴史、文化、伝統などの資源をあらためて評価・活用するとともに、その魅力を発信し、アジアや世界との直接の交流を深める。
- ・ これらを通じて、アジアや世界の人々が、訪れたい、学びたい、働きたい、住みたいと思うような、開放的で協調的な、魅力があり、信頼され、尊敬される国を創る。

アジア・ゲートウェイ構想の3つの基本理念

: アジア・世界に向けた『基本理念』を発信

1. 『開放的で魅力ある日本を創る』

～訪れたい、学びたい、働きたい、住みたい国に～

- ・ 国内市場の開放性を高め、アジアや世界の人々や経済活動にとって魅力的な日本に。
- ・ 「閉鎖的で内向き」というイメージを刷新し、アジアや世界の人々が「訪れたい、学びたい、働きたい、住みたい国」、「世界中の文化・芸術や情報が融合し、新たな価値を生み出す国」を創る。

2. 『開かれたアジアを共に創る』

～経済を中核とした開放的な地域秩序の維持・深化～

- ・ アジアは、域外の直接投資等を積極的に受入れ、民間の経済活動の緊密化を原動力に実体的な地域秩序を形成しつつある。
- ・ そうした現在の開放的な地域秩序を維持・深化させ、持続可能で新たな成長に向けた地域秩序を共に創る。

3. 『互いを尊重し、共に生きる』

～多様性を前提に相互理解・相互信頼の関係を構築～

- ・ アジアは、言語、宗教、文化など多様。これを受容し共生する価値観が重要。
- ・ 自由と法治といった普遍的価値の共有を基本に、文化等の多様性を前提に相互に理解を深め、相互に信頼しあえる関係に。

アジア・ゲートウェイ構想が掲げる7つの重点政策

「オープン」で「イノベーション」に富んだ経済社会を構築し、新たな「創造と成長」を実現し、世界に信頼され、尊敬される、リーダーシップのある国になることを目指す。

1. 人流・物流ビッグバン

～利用者の視点に立った航空・港湾・物流改革～

(アジアとの交流拡大に向けた航空政策の見直し、競争力強化のための国際空港・港湾の24時間化と利用促進、通関等の輸出入制度の簡素化・迅速化及びアジア域内のシームレス化、国際会議・青少年交流・訪日観光を通じた交流人口の拡大等)

2. 国際人材育成・受入戦略

～世界で活躍できる人材の育成と海外人材受入・育成の戦略的推進～

(世界で活躍できる日本人の育成のための大学・大学院改革、優秀な外国人の受入・育成のための制度改革・環境改善等)

3. 日本・アジアの金融資本市場機能強化

～日本の国際金融センター化とアジアの金融資本市場の育成～

(金融業務の自由化、金融資本市場法制等の整備、アジアの金融資本市場のインフラ整備支援等)

4. 「国内市場型」産業の競争力強化

～グローバル化や成長するアジアに対応した「攻め」の農業・サービス業改革～

(農林水産物等の輸出促進・農業の国際競争力強化、その他従来国際展開に積極的でなかったサービス産業など「国内市場型」産業のアジアへの展開促進等)

5. アジアの活力を取り込む地域戦略

～官民一体となって、直接アジアとつながり、魅力と活力ある地域を創る～

(官民の協力による地域主導による戦略的な対外交渉やそのための地域整備、地域の特色を活かした対日投資等の受入推進、国際会議誘致、観光戦略等)

6. 日本の魅力の向上・発信

～「美しい国、日本」、知的創造力に富んだ「クリエイティブ・ジャパン」を創り

世界に発信～

(「日本文化産業戦略」の策定等による文化・芸術振興、ファッション・ポップカルチャーなど Cool JAPAN の発信力の強化、コンテンツの創出・流通促進のための制度整備、国際放送の強化等による「美しい日本」の発信等)

7. アジアの共通発展基盤の整備

～世界の成長を支える「開かれたアジア」の維持・発展～

(EPA等を通じた経済連携推進、環境・エネルギー等の分野における協力、インフラ・ビジネス制度の整備等によるシームレスな域内ビジネス環境・情報・社会基盤の構築等)

政策の検討・推進の基本方針

アジア・ゲートウェイ構想の検討・推進に当たっては、以下の点を基本方針とする。

- ビジョンだけでなく、具体的で実効性のある政策を提言。
- 各府省横断的な視点で検討し、官邸主導で優先順位を明確化し、機動的かつ戦略的に取り組む。
- 知識、経験のある有識者等と広く議論。複線型の情報収集により政策を決定。
- 「国民」「利用者」「消費者」の視点を重視。
- 数値目標・時期を極力明確化。
- 国内外に積極的に発信し、日本への理解と信頼を高める。